



小池 光選

「忠臣蔵」若者知らず「BTS」われは知らねばこの深き溝
和歌山県 助野貴美子

【評】世の中の変化の速度がものすごい、高齢者はついて行けない。BTSはわたしも知らなくて、聞いたら韓国の七人組人気ボーカルグループの由。そんなの知らないよねえ。てのひらの丸薬ころがりゆきしごと終わりし夏の恋一つあり
垂水市 岩元 秀人

【評】恋は突然に始まり、突然に終わると誰かが言っていた。この歌は上句の直喩がユニーク。撥ねて転がってゆく丸薬を止めることは誰にもできない。愛恋またしかり。
夕暮れにさびしいなんて言えなくてどら焼き買おう二つ食べよう
昭島市 中村 恭子

【評】夕暮れがさびしいのは短歌の定番だが、それに反抗する。どら焼きを、しかも二つも、食べる。ぐんぐん元気になる。りっぱだ。
奥さんを大事にしてと別れ際鰥夫の友がわれに言ひたり
国分寺市 加藤 武夫

この場所に日々の悩みを置いてゆく夕暮れ時の土佐泊港
鳴門市 楠井 花乃
竹槍が竹を斜めに切ったものだけであることを知らない世代
千葉市 佐藤 綾子

子も孫もそれぞれの校歌熱唱す曾孫も歌う保育園のうた
芦屋市 宮本 允子
山道にパラパラと音のして雨は見えねど笹に降るなり
龍ヶ崎市 前田のぶ子
働いて帰れば妻が明るくて酒が美味しいこれが幸せ
山形市 柏屋 敏秋
胃薬と風邪薬だけ有れば良いあとは自然の力を借りる
秋田市 菊地 秀悦

栗木 京子選

白雁が北の国へと旅立つ日若葉啄む十勝平野の
東大阪市 吉村 茂美

【評】冬を日本で過ごした白雁。春になると北方へ渡ってゆく。飛び立つ前に十勝平野の若葉を食べる様子に生命力があふれている。白い羽と緑の葉の色彩の対比が美しい。
厄年の私の横で拝む夫兼鴨の煙は心に染みる
東京都 十葉 理恵

【評】都内集鴨のとげぬき地藏尊高岩寺である。厄年の作者の無病息災を祈ってくれる夫の気持ちがありがたい。二人で共に香炉の煙を浴びれば、ご利益がありそうだ。
赤ちゃんの帽子に似てるすらんを写さんとして皆しゃがみおり
宮崎市 時任未知子

【評】すらんの花はたしかに愛らしい帽子の形をしている。下向きに咲く花を写そうとしゃがむ人たち。やさしい情景である。
春の部屋光はやわく瓶の色ジョージアグリーンに紅いバラ挿す
八尾市 一井真砂枝

太平洋戦争超えし空の果て月より遠き和平の二文字
横浜市 長倉メロン
愛犬を亡くして嘆くプーチンが愛国者を犬死にさせる
京都市 寺西 和史

そそり立つ入道雲を生け捕りにせむとはかりに槍の投擲
京都市 峰尾 秀之
病み明けて再び病むを伝へ来し同僚となほ動く日待つ
横浜市 北見 美保
知人より案内の来る書道展宛名の文字の年ごとに細く
東京都 伊藤 直司
君の死後もわたしの旅は続きおり大きな傘を失いてなお
赤磐市 黒岩 博美

俵 万智選

ほんとうのことは言わなくてもいいよ焼かなくてカッパ焼きそば
平塚市 小松百合華

【評】焼かずに、お湯を差して作っても、それは「焼き」そばと呼ばれる。ポップな例で、世界と言葉の乖離を示しつつ、無理に言葉にしないでいいと励ましてくれる一首だ。
鳥の声のように信号鳴りだして私も鳥のように渡れり
仙台市 小野寺寿子

【評】日常の中の「ちょっといい気分」が、横断歩道の場面を通して伝わってくる。繰り返される「鳥の「よ」」がリズムミカルで、弾む足取りを思わせる。
飛行機の踏み切っている滑走路海跨ぎゆく走幅跳
横浜市 山田 知明

【評】滑走路での助走を経て、飛行機が浮く瞬間が、ユニークな比喻で捉えられた。着地は海の向こうというのだから、スケールが大きい。お別れはしどろもどろに幕を閉じサヨナラ負けはいつもカタカナ
長岡市 三月 とあ

花屋にはない花ばかり並んでる子の花屋にて買うハルジオン
横浜市 富尾 大地
ここにしていることを告めるように張る胸を職場のトイレで絞る
朝霞市 桐島 あお

辞世など詠まぬ時代の若者はストーリーだけ残して消える
東京都 中山 琉貴
だるまさんがころんだと振り返ったら動いたよ
うな気がした彫刻
白井市 毘舎利道弘
僕のことタコ焼きよりも好きと言っよう分からんが気持ちいい風
堺市 成山きよし
その人を忘れないようお祭りにひとりで行ってひとりで帰る
京都市 袴田 朱夏